

鶴ヶ島市立富士見 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 について の分析・課 題 【肯定評価】()内、昨年度の評価 ・教員 100%(96%) ・生徒 89%(89%) ・保護者 78%(72%) ・地域 100%(100%) 全体的に肯定評価の割合が高く、周知が進んでいることが伺える。 保護者評価の割合が、他と比べ、割合が低いため、より周知を図る必要がある。
	生徒	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策 ・引き続き、授業参観や学校行事、学校だより、学校ホームページなど、様々な機会を通して学校教育目標や教育方針の周知を図る。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価 ・学校ホームページや学校だよりにおいて、学校教育目標の周知がされている。また、学校朝会の校長講話において学校教育目標に関する話題を取り上げている。繰り返し発信することで周知が進むと考えられるので、継続してほしい。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立富士見 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題 【肯定評価】()内、昨年度の評価 ・教員 100%(92%) ・生徒 97%(96%) ・保護者 87%(92%) ・地域 100%(100%) 生徒の評価から、学校生活の満足度が高いことが伺える。 保護者評価の割合が、他と比べ割合が低く、学校の取組をより発信していく必要がある。
	生徒	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 ・教職員は、さわやか相談員やスクールカウンセラーなどの専門家と連携し、生徒理解を深めながら支援を充実させる。 ・学校公開日や学校ホームページ、各種たよりなど、保護者が学校の取組を知ることのできる機会の充実を図る。
	保護者	②学校は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級づくりをしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・授業参観では、生徒間の対話を通して学び合う姿が多くみられた。引き続き、自己有用感をもつことができる学習環境づくりに努めてほしい。 ・本項目の、特に生徒評価については100%の肯定評価を目指してほしい。難しいことではあるが、多くの大人が連携し、全ての生徒が自分のよさを発揮することができる環境づくりをお願いしたい。
	地域	②学校は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立富士見 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導①	教職員	③私は、生徒が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題 【肯定評価】()内、昨年度の評価 ・教員 89%(92%) ・生徒 89%(89%) ・保護者 88%(91%) ・地域 100%(100%) 肯定的評価が90%近くあるものの、主体的な学びや対話的な学びを通して、学びをより深めることは、今の教育に求められている事であり、100%の肯定的評価を目指す必要がある。
	生徒	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 ・更なる授業力向上のため、職員研修の充実を図る。(講師を招いての授業研究会、教科を超えた授業参観 など) ・県学力・学習状況調査を有効活用し、結果分析から、更なる授業改善を図る。
	保護者	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・授業参観では、生徒間の対話を通して学び合う姿が多くみられた。 ・自分の考えを伝えたり、他者の考えに耳を傾けたりする力は、社会で求められる力である。引き続き、集団で学ぶことのできる学校のよさを十分に生かした指導を進めてほしい。
	地域	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立富士見 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果について の分析・課題 【肯定評価】()内、昨年度の評価 ・教員 100%(92%) ・生徒 91%(91%) ・保護者 87%(85%) ・地域 100%(80%) 全体的に肯定評価の割合が高く、学校公開等の機会を通して、ICT活用による授業への理解を深めることができたと考えられる。
	生徒	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決への方策 ・ICT支援員と連携し、教員のICT活用能力の更なる向上を図る。 ・学校公開日や学校ホームページ、各種たよりなど、保護者が学校の取組を知ることのできる機会の充実を図る。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・授業参観では、一人一台の学習用端末やモニターを効果的に活用している場面が多く見られ、生徒も適応している。 ・これからの社会を生きる生徒達にとって、ICT機器の活用能力は、必要な力である。引き続き、ICT機器の活用のよさを生かした授業実践を積み重ねてほしい。同時に、生徒には、情報セキュリティについても学んでほしい。 ・ICT機器の活用が進む半面、「書く」機会が減ることの影響を心配している。「書く」指導についても、バランスよく行ってほしい。
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	75% 80% 85% 90% 95% 100% □① □② □③ □④ □⑤	

鶴ヶ島市立富士見 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果について の分析・課題 【肯定評価】()内、昨年度の評価 ・教員 94%(83%) ・生徒 82%(81%) ・保護者 87%(88%) ・地域 100%(67%) 体育授業では、運動量を確保した授業を展開し、生徒が主体的に運動している。体育授業以外の運動機会が減っており、体力向上に向けては、体育授業が担う役割が大きいことが伺える。
	生徒	⑤私は、体育や休み時間・部活動等で、校庭や体育館などでいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決への方策 ・本校の体力的課題を明確にし、課題解決に向けた体育科授業の工夫改善や体育的行事、部活動との関わりの中で体力課題の解決を図る。 ・本校の体力向上の取組について、学校公開日や学校ホームページ、各種たよりなど、保護者が学校の取組を知ることのできる機会の充実を図る。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・放課後に公園等で遊ぶ生徒の姿を見かけなくなったことや近年、部活動が任意加入になっていることなど、体育授業以外での運動機会が減っているように感じる。学校では、授業中の運動量を確保しながらも、生涯スポーツにつなげるために、運動の楽しさに触れることができる授業の工夫をお願いしたい。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	

鶴ヶ島市立富士見 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導①	教職員	⑥私は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題 【肯定評価】()内、昨年度の評価 ・教員 95%(91%) ・生徒 88%(88%) ・保護者 85%(87%) ・地域 100%(100%) 肯定評価の割合が高かったものの、本項目は、生徒指導上大変重要な項目であり、100%の肯定的評価を目指す必要がある。
	生徒	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 ・家庭との情報共有に努め、共通理解のもとで支援を進めていく。 ・引き続き、生徒指導部会や教育相談部会を中心に全職員で組織的に対応していく。 ・さわやか相談員やスクールカウンセラーなど、専門家との連携を図りながら、丁寧に対応していく。
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・生徒、保護者、教職員が、一人で悩みを抱え込むことがないように、引き続き組織的に対応してほしい。 ・多くの大人が生徒に関わる大切であると考え、学校以外の相談窓口があれば、生徒、保護者への周知をしてもらいたい。 ・教員の肯定評価と生徒、保護者の肯定評価の割合に差が見られるので、家庭との連携を、より丁寧に行ってもらいたい。
	地域	⑥学校は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立富士見 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果について の分析・課題 【肯定評価】()内、昨年度の評価 ・教員 100%(87%) ・生徒 94%(92%) ・保護者 82%(83%) ・地域 100%(75%) 肯定評価の割合が高かったものの、本項目は、生徒指導上大変重要な項目であり、100%の肯定的評価を目指す必要がある。
	生徒	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決への方策 ・全教職員で、認め、褒めて伸ばす教育を推進する。 ・家庭との情報共有に努め、共通理解のもとで支援を進めていく。 ・引き続き、生徒指導部会や教育相談部会を中心に全職員で組織的に対応していく。 ・さわやか相談員やスクールカウンセラーなど、専門家との連携を図りながら、丁寧に対応していく。
	保護者	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・教員の肯定評価と生徒、保護者の肯定評価の割合に差が見られるので、家庭との連携を、より丁寧に行ってほしい。 ・本項目の質問に対し、「わからない」と答えている保護者が一定数いるため、学校の取組に関する情報発信や家庭との丁寧な連携に努めてほしい。
	地域	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	

鶴ヶ島市立富士見 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題 【肯定評価】()内、昨年度の評価 ・教員 100%(91%) ・生徒 84%(87%) ・保護者 77%(73%) ・地域 83%(80%) 個に応じた指導(指導の工夫)についてのイメージができないため、教員とその他の評価の割合に差ができていることが考えられる。
	生徒	⑧私は、苦手なことなどを、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 ・個に応じた指導の具体的な取組について、学校公開や学校ホームページ、各たよりを活用し発信する。 ・特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーと連携し、生徒の実態把握をする。 ・教育相談部会を活用し、個に応じた支援について、組織で検討し、支援につなげる。 ・引き続き、相談窓口の周知や相談しやすい雰囲気づくりに努める。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・特別支援や個に応じた指導について理解を深めた上で、授業参観を行いたい。 ・限られた教職員で個に応じた指導を進めることは、容易なことではないと思われるが、引き続き、一人一人の生徒に目を向け、家庭と連携しながら支援を行ってほしい。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立富士見 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 について の分析・課 題 【肯定評価】()内、昨年度の評価 ・教員 100%(88%) ・保護者 90%(88%) ・地域 83%(100%) 「地域とともにある学校」に向けた取組について、保護者、地域に知ってもらう必要がある。
	生徒			課題解決 への方策 ・引き続き、学校公開週間や学校ホームページを活用し、地域と連携した取組を発信していく。 ・学校運営協議会や学校応援団コーディネーターからいただいた意見を基に、取組の工夫改善を図る。
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価 ・学校運営協議会での防災教育に関する意見から、学校応援団コーディネーターと連携し、地域支え合い協議会や鶴ヶ島市危機管理課、日本赤十字社による「富士見中防災教育チャレンジday」を実現することができた。継続的な取組となるよう、今年度の反省を次年度以降に生かしてほしい。
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島市立富士見 中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察													
働 き 方 改 革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<table><tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr><tr><td>①</td><td>57%</td></tr><tr><td>②</td><td>39%</td></tr><tr><td>③</td><td>4%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr></table>	評価結果	割合	①	57%	②	39%	③	4%	④	0%	⑤	0%	評価結果 について の分析・課 題	【肯定評価】()内、昨年度の評価 ・教員 96%(87%) 肯定評価の割合が高く、教職員の業務改善に向けた意識の高まりが伺える。引き続き、教育の維持・向上に向けた業務改善に努める必要がある。
	評価結果	割合															
	①	57%															
	②	39%															
③	4%																
④	0%																
⑤	0%																
生徒			課題解決 への方策	・引き続き、教職員の業務改善研修会を実施し、教職員の意識を高めていく。 ・必要に応じて、会議や研修の工夫改善を行う。													
保護者			学校関係 者評価委 員会によ る評価	・96%の先生方が肯定評価をしていることから、業務改善に向けた取組の成果が伺える。 ・引き続き、教員個人の視点と組織の視点から、教育の維持・向上に向けた働き方改革の推進をお願いしたい。													
地域																	